編集後記

＜＊＞今回も多くの投稿があり、厚みのある会誌となりました。辻先生には巻頭言の欄への御寄稿をお願いしました。化学発光や生物発光を利用する高感度な分析法がFIA法との組み合せによりさらに精度や再現性の優れた分析法となることを述べておられます。オランダのvan der Linden教授にも御寄稿いただきました。指標欄に掲載致しました。同教授はFIA関連のIUPAC用語案作成のためのアンケートを募集しておられるとのことで、機会があればアンケート結果などについても再度御寄稿いただきたいと思います。今後も国外からの寄稿を掲載したいと思いますので、ご希望がございましたら事務局までお知らせください。今回、Bibliographyの欄を大分大学の馬場先生にお願いしましたところ快く引き受けていただきました。お礼申し上げます。

＜＊＞第11回フローインジェクション分析研究会講演会が、平成元年6月30日に朝日大学にて、酒井先生のお世話で開催されます。本誌お知らせの欄をご覧下さい。多数のご参加をお待ちしております。

＜＊＞お知らせの欄でご紹介しましたようにFIA法のJISの通則が制定されました。今後はFIA法の各論への展開を図るため、FIA装置メーカーなどを中心として原案の作成が行なわれる予定です。

＜＊＞本誌5巻1号でお知らせしましたようにFlow AnalysisⅤの日本（熊本）での開催が決まりましたが、本研究会を中心にして、準備委員会の設置を行ない、活動を始めることになりました。

＜＊＞中国科学院林業土壌研究所（瀋陽）のFang Zhanolun教授より第2回中国FIA会議が本年10月に開催されるとの連絡がありました。前回は日本から桐栄教授並びに鈴木教授が参加されましたが、今回は石橋教授並びに和田教授が参加の予定と伺っています。

＜＊＞本号にはFIA研究会会員名簿を掲載致しました。個人会員については50音別名簿も作成しました。住所、所属など変更あるいは誤りがありましたら事務局宛お知らせ下さい。

＜＊＞事務局では本会誌への多数の御寄稿をお待ちしております。

（今任稔彦）